

第3回 視力障害児幼児研究会

(R. 56. 8. 25)

<プログラム>

司会者 京都ライトハウス
主事補 上村邦夫

I. あいさつ

京都ライトハウス

館長 田村敬男

京都ライトハウス 武内啓子

自己紹介

II. 研究発表

イ. 盲児の運動発達と遊び

愛知県心身障害者コロニー

視覚障害児訓練室

ロ. 盲児の統合保育について

神戸市立心身障害福祉センター

対馬貞夫

ハ. 盲児の生活身辺自立

岡山県立岡星寮

梶川ひろ子

—— 昼 食 ——

III. 懇談会

IV. おわりのことば

京都ライトハウス

~~副館長 野野勝也~~

高橋弥生

V. 希望者館内見学

8 ものに手をのばしてつかむ

正眼児ならば、つづいてなんでも目についたものに手をのばしてつかむようになる。

盲児においては、視覚によってもものに手をのばすという行動が体制化されないのは当然である。



図8-1 正眼児



図8-2 正眼児



図8-3

9 盲児におけるものに手をのばしてつかむという行動

正眼児において、視覚によってもものに手をのばすという行動の発現から、聴覚によるその発現まで、数カ月の期間を要するといわれている (Fraiberg, S. 1968)。

盲児において、視覚の欠損を補って、ただちに聴覚によって手をのばすという行動が体制化されるというわけではない。

9-1 聴覚によってもものに手をのばす

耳許で玩具の音をたてるが手をのばしてこようとはしない。玩具の音に対して、わずかに指をひらいたり、手を動かす行動がみとめられることもあるが、玩具の音がするとかえってバタバタさせていた手足の活動をやめて、じっと聞きいる場合もある。3で述べたように、床に玩具がころがしてあって、手が触れることがあれば握る。これは必ずしも年齢のせいではない。2歳過ぎまで、体制化されないままに残ることもある。(写真=) この子供は声のする方へ歩いていくことができる。音をたよりに歩くことができ、音のする方へ手をのばすことがないというのは、いかにも理解しがたいことである。これについては、盲児における「歩行」という空間行動の体制化についてみる必要があるが、このレポートでは省略する。



図9-1-1

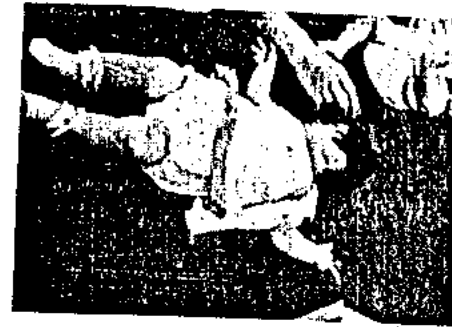


図9-1-2



図9-1-3



図9-1-4

9-2 聴覚によって手をのばす

聴覚によってもものに手をのばす行動が発現しない盲児でも、玩具を手で軽く触れながら少しずつ

動かしていくと、爪を揃えてこれを追跡してくる。即ち、聴覚によって手をのばす行動は、観察されることが多い。



図9-2-1



図9-2-2

9-3 聴覚による手の抑制

この子供は、ある程度の視力を有し、玩具をみせると手をのばしてつかむ。しかし、この玩具が音をたてていると、手を胸のところにもちめて、じっと音を聞きながら玩具をみつめ、とろうとしない。 図9-3-1

9-4 聴覚によってもものに手をのばす行動(その拡大価値)

前項(9-2)でみた聴覚によってもものに手をのばすという行動は、聴覚によってもものに手をのばすというその後の空間行動の体制化に対して拡大価値をもつものと思われる。

ベビーベッドの上の玩具は、このような拡大価値



図 9-3-1

値をもつ行動が活発に発現するより吊られたものである。

写真イ：このこどもは9-1の場合と同様、枕許の玩具をつかむことはあるが、玩具の音に対して手をのばすということにはなかった。玩具を吊すことをはじめてから2週間後、この写真を撮るとき、手をのばして玩具をひっぱり、よく遊んでいた。この時玩具をとりはずし、耳許で音をたてたところ、玩具を吊してあった位置に真っすぐ手をのばし、それから空中を探しはじめた。

写真ロ：この子供は仰向けに寝かせると泣きだすために、いつもうつ伏せに寝せてあったので、同じく玩具を吊した。

写真ハ：この双生児は、まだ「手をのばす」というほどの月齢ではないが、このように玩具を吊しておく、偶然手が触れることがあるらしく、玩具をひっぱって遊んでいるのがしばしば観察された。



図 9-4-1

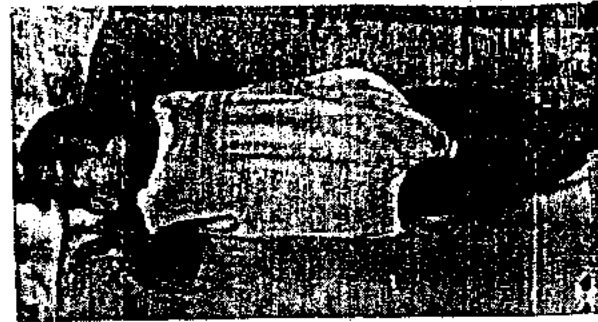


図 9-4-ロ-①



図 9-4-ロ-②



図 9-4-ロ-③



図 9-4-ハ

9-5 机とものに手をのばす行動

吊した玩具で遊ぶという行動が、聴覚的にもものに手をのばす行動に対する拡大価値をもつものなら、5にみたような机の使用もまた同様であろうと思われる。この幼児は、机を使い始めてからまだまもない。いつも机の中央におかれる玩具を机の端において鳴らしたところ、まず机の中央に手をのばし、それから机をたたきながら、徐々に両手を机の両端にひろげていき、右手に玩具を発見して、体の向きをかえて両手で遊びはじめた。

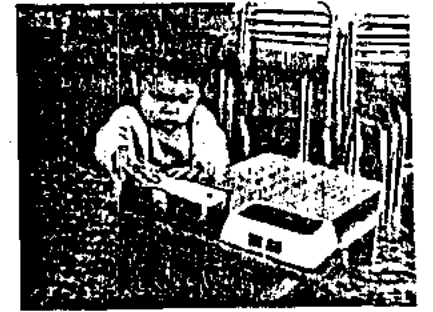


図-9-5-③

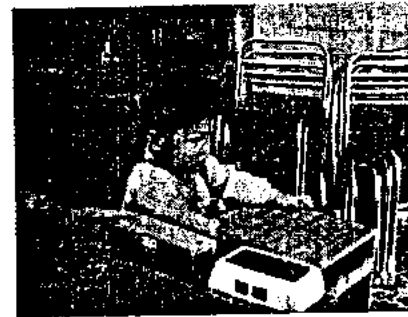


図 9-5-①

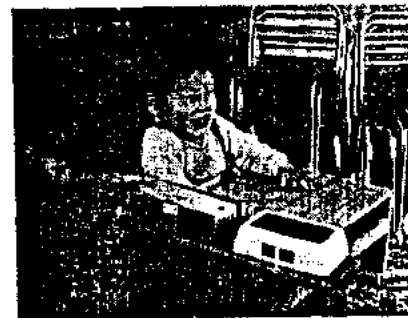


図 9-5-②

はさして正確でないものようである。この時期幼児は玩具等の音をきいて手をのばすが、その方向は必ずしも音源と一致しないために、さまざまな手をのばす行動の錯誤がみられる。

写真イ：この子供は玩具の音をきいて、急いで自分の前の床に手をのばした。彼女はこの直前まで、床に玩具をおいてならして遊んでいたのである。

写真ロ：同じく玩具の音をきいて、たまたま足に触れていた音のしていない玩具をつかまえたところである。

写真ハ：この子供はちょうど聴覚によってものに手をのばす行動が体制化されはじめた時期にあり、どこで音がしても両手を空中に軽くもちあげる。



図 9-6-1

9-6 未完成な聴覚によるものに手をのばす行動

9-4の1、及び9-5でみたように、聴覚によってもものに手をのばす行動から、聴覚によるそれへと空間行動の拡大がみられる頃、音源の定位



図9-6-ロ

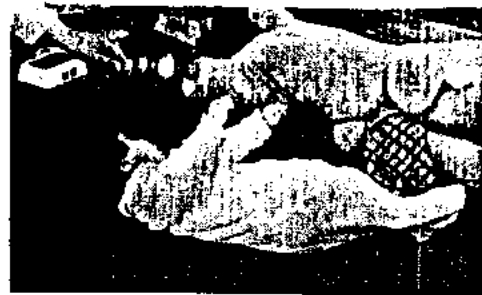


図9-7-ロ-①



図9-6-ハ

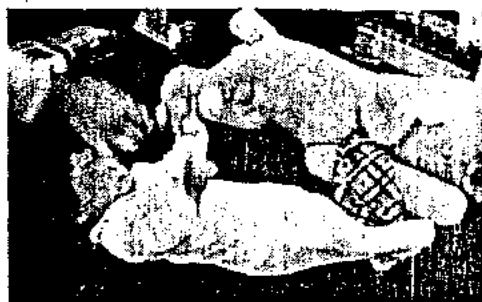


図9-7-ロ-②

9-7 活発な聴覚によるものに手をのぼす行動
盲児における聴覚によるものに手をのぼす行動
の体制化の過程には、しばしば停滞が生じることがあるが、必要な条件が満たされれば、円滑に形成されることも多い。活発な、聴覚によるものに手をのぼす行動は、高い適応価値と拡大価値をもつものと思われる。

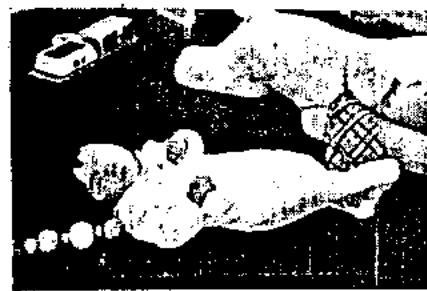


図9-7-ロ-③



図9-7-イ



図9-7-ハ-①



図9-7-ハ-②



図9-7-ニ-①



図9-7-ニ-②



図9-7-ニ-③

10 ものに手をのぼす行動と腹這い、はいはい
仰向けから腹這いへと姿勢をかえることによっ
て、盲児においては拡大価値が生じる場合と、そ
うでない場合とがあり、これにはものに手をのぼ
してつかむ等の他の空間行動の体制化が関係して
いるものと思える。

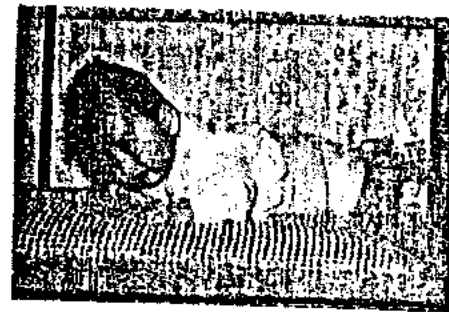


図10-1-① 正眼児



図10-1-② 正眼児



図10-1-③ 正眼児

統合(交流)保育について

神戸市立心身障害福祉センター

対馬貞夫

○ 統合(交流)保育に関する基本的な考え方

障害児と健常児が共に統合教育や交流教育を受けた場合、障害児の側からは、多くの健常児に接し社会的適応能力を身につけることができ、学力や体力が予想以上に伸びた。健常児の側からは、障害児の存在を知り、自然に接し方を身につけ、障害児の懸命な努力を見て、一層自分の能力の開発に役立った。

以上のことから、統合や交流教育、保育の大きな成果ではあるが、これが基本的な問題点とはならないと思ふ。

基本的な問題点は、障害児も健常児も、一人ひとりの子どもが、その子どもに最も適した十分な教育を受ける権利があるという観点に立つて考える必要がある。

それと可能にする教育的方法とは何か。

盲児訓練施設 又は 盲学校幼稚園部、盲信教育

学童児で6歳児 弱視学級

盲児施設 又は 盲の幼稚園部、一般園と交流する

この交流 〃 〃 養護学級園や養護施設

一般園に、原則として盲訓練施設と交流する

全面的な、配慮、一人ひとりに

これに反対する、母親、教師(障害児の親、健常児の親、等)、等、受け入れの施設の施設状況、と障害児の教育等を考慮して一番よいと思ふ方法をとる必要がある。

○ 統合教育や交流教育に対する態度

障害があるから、すぐれている、劣っている、といった点に神経を使う必要のない場所で教育を行う。(だから、障害者だから親切にしてあげよう、と健常児にむき理解させる必要はない。障害児も健常児も一人の子どもとしてそのまゝの姿を認めながら、みんなと理解し合える場での教育が望ましい。

当センター訓練児、並に兵庫県幼稚園児の統合交流状況

| 名前 | 性別 | 障害の種類 | 使用 | 統合交流園 | 期間 | 進路 |
|--------|----|----------------|--------|--------|-----|-----|
| 1. 夏樹 | 男 | 盲、眼、聴、知、障、児 | 神戸市立盲幼 | 神戸市立盲幼 | 幼稚園 | 盲学校 |
| 2. 広隆 | 男 | 全盲、未網、盲、児 | 神戸市立盲幼 | 神戸市立盲幼 | 幼稚園 | 盲学校 |
| 3. まや | 女 | 0.03、0.04、白障、児 | 神戸市立盲幼 | 神戸市立盲幼 | 幼稚園 | 盲学校 |
| 4. こすけ | 女 | 0.03、0.04、白障、児 | 神戸市立盲幼 | 神戸市立盲幼 | 幼稚園 | 盲学校 |
| 5. 孝三 | 男 | 弱視、聴、障、児 | 神戸市立盲幼 | 神戸市立盲幼 | 幼稚園 | 盲学校 |
| 6. 啓広 | 男 | 弱視、聴、障、児 | 神戸市立盲幼 | 神戸市立盲幼 | 幼稚園 | 盲学校 |
| 7. 敏公 | 男 | 0.04、0.04、白障、児 | 神戸市立盲幼 | 神戸市立盲幼 | 幼稚園 | 盲学校 |
| 8. 雅子 | 女 | 0.01、0.04、弱視、児 | 神戸市立盲幼 | 神戸市立盲幼 | 幼稚園 | 盲学校 |
| 9. 知左 | 男 | 0.05、0.01、白障、児 | 神戸市立盲幼 | 神戸市立盲幼 | 幼稚園 | 盲学校 |
| 10. 昌子 | 女 | 0.01、0.01、弱視、児 | 神戸市立盲幼 | 神戸市立盲幼 | 幼稚園 | 盲学校 |
| 11. 昌子 | 女 | 0.01、0.01、弱視、児 | 神戸市立盲幼 | 神戸市立盲幼 | 幼稚園 | 盲学校 |

かもめ通信 58.7.1

No. 33

— 目に障害のある乳幼児をもつおかあさんへ —

神戸市教育委員会

視覚障害乳幼児のそだて方

しゃべらなくても 話しかけ
返事がなくても 話してやって
きつと きつと その声をおぼえて
うなずく時がある。

笑わなくとも ほうずりして
母のぬくもり つたえてやって
手足動かずとも きつと
動かす時がある。

まらまら。まらまら。
手をにぎり 呼びましよう。呼びましよう。
子どもの名前を。

広い広い心で 子の名呼べば
ほら 一聞えたでしょう。
母さんの声が…… (以下略)

(山口弘子作 寝屋川市立あかつき・ひばり園
「つばさだより」より転載)

この詩は障害児をかかえたおかあさんが、わが
子の未来への可能性を信じつつ、母と子が何をよ

せ合いながら人生を歩んでいく親子の姿がよく表
現された感動的な詩です。その一つ一つの言葉は
障害児を育てていく上で、いや健常児をもよくめ
て、子育ての真髄といえます。

目が不自由なお子さんの場合も同じです。

よし目が見えなくても、声は聞えているのです。
ほんの生れた時から、まだお腹の中にいる時で
きえ、お子さんは聞いているのです。だから、話
してあげてください。おかあさまの声はよく知っ
ているのです。憶えているのです。話す時期がく
れば、ことばがおのずと出てくるのです。反応がな
くとも、やさしく話してあげてください。

ほほえみ 目の不自由なお子さんの中には、
「ほほえみ」反応の発現がおそい子どもさんもあり
ます。しかし、温かいおかあさんの胸の中で、
やさしい、ほうずり、あまいにおいの中で、にっ
こりとえみをうかべます。「指あそびや顔あそび」
など、楽しく遊いながらしてあげたら笑います。

おとうさんにブンブン、からだを揺っていただ
いなら、どんなお子さんもキョッキョッと声を立て
ます。あかちゃんは大喜びです。

首あげ。皆んなと同じ時期に歩けない子ども
さんもおりますが、しかし、あせらないことです。
目の不自由なお子さんは、平均1才8ヶ月ぐら
いで歩けたらよいといわれています。あせらないで
待ちましよう。しかし、何もしないで、待ってい
たのでは、お子さんがかわいそうです。

あかちゃんの時には、あお向けばかり寝かして
おいてはいけません。時にはうつぶせの姿勢にし
て、手を前に出して、腕の力や肩の力で、首があ
げられるような姿勢をとらせておくことが大切で
す。

手をつかう。坐れるようになったら、手をつ
かって、おやつなど自分で食べるようにしまし
まよう。ただ口を大きく開けさせて、食物を口に入れ
込むだけではいけません。自分の手でたしかめて
食べたいのです。食べる時は喜んで手をつか
いますので、この機会に手で物をにぎって、口にも
っていくという事をおぼえてもらいます。

はいはい。首あげや、寝がえりなど、手や腕
をつかってすることに、「はいはい」があります。
首をあげて、手を前に出し、足でつっぱって、懸
命に前に進むのです。前で鈴の音などをさせたり、
名前を呼んだりします。前にすすめたら、ごほう
びもあげましよう。これには手と足の運動をと
まないので、立てるようになった時、バランス
がよくとれて、ひとりですくのに都合がよいの
です。まず「はいはい」ができてから、ひとり歩
きの練習をした方が子どもさんの成長発達のため
にはよいようです。

よく見せましよう。光覚があったり、少しは
見えていると思われるお子さんには、何んでも見
せてあげましよう。例えば、まず音をさせて、
見せようとする対象物の方向に注意をひかせま
す。それから、目でそれをよく見せ、同時に「こ
れはガラガラよ」と言葉をかけ、その後、手で
揺らせます。手近にあるものについて、目が十分
に見えない子どもさんは、すぐ手を触れて、目
を使おうとしないのです。そこで、目で見て、そ
の後にさわるといったことをさせる必要がある
のです。

すべての感覚をつかって物を探ろう。

上に述べましたように、一つの物を手にするま
で、聞くこと、視ること、触れること、嗅ぐこと
味うこと、その他 硬さ、柔らかさ、熱さ、つめた
さなどの感覚を通して、それが何ものであるかを知
ることができるのです。そこで、お子さんが物を
さわって、何ものであるか知らせるためには、こ
れらの感覚を総動員させて大脳に伝える必要があ
りますので、目が不自由だからといって、簡単
にとってあげることをしてない方がお子さんの感覚
の訓練になると思われます。これらのことをいつも
心にとめて、お子さんの養育につとめましよう。

相談 訓練施設：神戸市立心身障害福祉センター
神戸市兵庫区水木通2丁目1-10
(電 078-577-1505)

市外の方は 兵庫県福祉会館内 盲人福祉協議会
神戸市中央区坂口通2丁目(電 078-221-4400)
参考書物：盲乳幼児の養育指導

東京都心身障害福祉センター
「盲児を育てる方へ」兵庫県立盲学校
「視覚障害児のそだて方」

神戸市立心身障害福祉センター

(担当 対馬貞夫)

盲児の生活身辺の自立

1981. 8. 25

岡山県視覚障害者協会

盲児施設 岡星寮

保母 梶川ひら子

盲児の身辺生活の自立

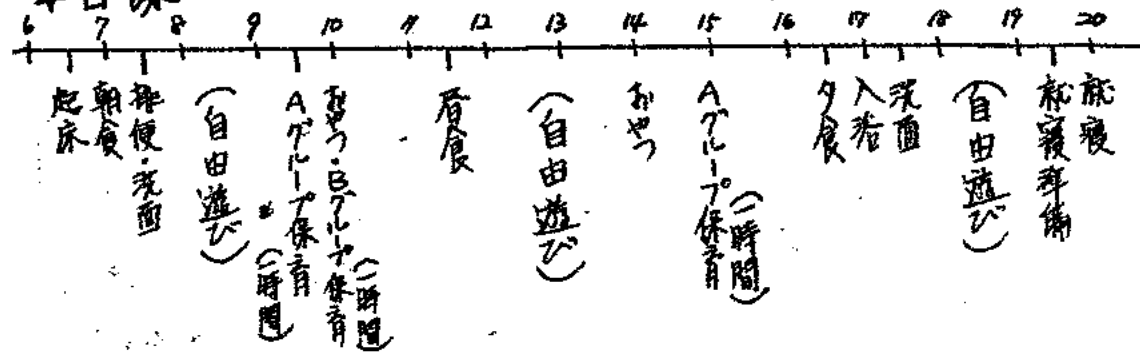
1. はじめに

盲児施設関係者における最近の傾向として収容児の重度化、
 ならびに低年齢化が年々進んでいる点もあげることができ、
 それに伴い対応の多様性が要求されており、何如に対応して中
 小の緊急な問題となっています。
 盲幼児については、53年より才男児が入寮して以来年々
 増加しており、その体制を整えるべく指導計画も作製し実施に
 取り組んでまいりました。

2. 入寮盲幼児の現状

| 対象児 | 生年月日 | 年齢 | 性別 | 入寮年月日 | 視力 | DQ | 全聴能 |
|--------------------|------------|----|----|------------|---------|-------|------|
| 分 子 A K N | S 50.10.28 | 5 | 男 | S 54.3.1 | 0.03 程度 | 70 程度 | 5+ |
| T N | " | 5 | 男 | " | 0.01 程度 | 70 程度 | 4+ |
| H M | S 51.6.30 | 5 | 女 | S 55.4.30 | 全盲 | 73 程度 | 4+ |
| 見 子 Y I | S 50.11.11 | 5 | 男 | S 54.11.11 | 全盲 | 49 程度 | 2~3+ |
| J K | S 52.9.19 | 3 | 女 | S 56.4. | 全盲 | 66 程度 | 1~2+ |

★ 日課



3. 指導について

幼児期に家庭で過保護と取り扱われていたり反対に放任さしめて
 すると人格形成にも機能の発達面でも問題であるのほうが多い
 もありません。
 しかし残念ながら、特に盲幼児に対する家庭での養育態度は
 そのどちらかの場合が多いのが現状です。さらに岡山盲学校
 とは幼稚部が設置されておらずその点に自分ではほとんど何も

Y児(男)について

★プロフィール

生年月日 S50年11月11日 (5才7ヵ月)
 眼疾 網膜腫瘍(右目摘出(5ヵ月) 両目治療が効果なし)
 視力 0 光感なし
 口 4才程度
 家族 両親、曾祖母、祖父、祖母、兄、妹
 胎生期 しんしの志出産後、注射薬も毛
 出生期 熱産(鉗子分娩、頭が少しのこいたまま長時間くらい置いていた) 3000g
 乳幼児期 母乳
 離乳完成 6ヵ月
 髪定 5~6ヵ月
 生歯 5ヵ月
 始歩 2才5ヵ月(7Eい歩き)
 入寮年月日 S54年11月1日(4才)

★家庭での様子

本児はいちゆるおぼあめん子で、夜寝る時以外はほとんど1日中曾祖母あるいは祖母に抱かれて過ごしていました。障害児という事で家族中から溺愛され、過保護に取り扱われていました。どのせいかお母様で自己制御は全く出来ず、依り心の強い性格で、飯からは何もしようとせず、お母様もお母様でない状態でした。食事や着脱衣は全介助し、排便は知らせるのでトイレにつれて行きます。入寮の主旨は家庭養育に困る事はないか、どのような教育をしたらよいか不安であると言う両親の希望によるものでした。

★入寮時約1ヵ月間の様子

食事 偏食が非常に激しく、お菓子、魚、パン、ウインナー、カレー、セキルトぐらいしか喜ばない。生野菜、ごはん、ミルクはかめはとは特に受け付けず、無理に口の中に入れてもはき出してしまい、以後は固く口をつぐんでしまふ。上の前歯がほとんど虫歯の為に欠けており、かたいものは全くかみ切らず、奥歯でもお利かきしない。またコップから飲む事が困難で、缶やケビンと手で哺乳瓶からのみお口に吸う。好きなものの中に小豆切ったものをまぜ、食べさせても上手に嫌い、おものおけ口からはき出してしまふ。

Y児の発達経過

| 月令 | 身長(cm) | 体重(kg) | 食事 | 排泄 |
|--------|--------|--------|---|---|
| 4才0月 | 88.6 | 13.0 | 偏食の極端に9才。 食べ世は山。午飯のみ | 夜尿。パンツへの失敗が多い。 夜はトイレで排泄する |
| 4才10月 | 90.2 | 13.0 | カレーは食べ下へる | 週に1度くらい夜尿は出る が: |
| 4才30月 | 90.2 | 12.0 | 嫌いな物でも食べる事が多 クオケチのネツリ | 夜尿の失敗が少なくなつた |
| 4才50月 | 90.2 | 11.0 | 全く食べない時も全部受け てしまう時がある ・スプーンを使いたくない | 夜尿の失敗がほとんどない |
| 4才70月 | 91.0 | 13.0 | 両親に食べさせられる民 く食べる。 | ウンチ出る時の言葉で本音を 排便する「ウンチ出したん が」と言ってくる |
| 4才90月 | | | 家に夏休み帰省。副食は リビとエビ | トイレでウンチが出た 排泄できた。 |
| 4才110月 | 94.7 | 13.5 | 口に含むものを食べ。嫌 なものは口にしないのみ 込ませ | |
| 5才10月 | 94.5 | 14.5 | 口に含むものを食べ る | 帰省時に帰省中のパンツ に排泄する時が来た |
| 5才30月 | 95.5 | 13.5 | エビを食べていけぬのは 嫌いな食べ物。スプーンを 使いたくない。 帰省中。お風呂で食べる | 時々失敗する 失敗した時は「パンツ見 るとしつこい足と見ると 分かる |
| 5才50月 | 97.0 | 13.5 | | 1) 通しパンツに排泄失敗 する。 |
| 5才70月 | 98.2 | 14.5 | 調子良く全部お風呂で食 べられる時がある。 | お風呂で部屋からトイレ に行く時、お風呂から 行く |

現在の様子 (556年7月)

食事

自分でコップを持ち、飲むことが出来る
食器を片手で持ち、スプーンがまわらうようにしてあるから自分で食べられる。
偏食が少なくなり野菜も食べるようになった。
虫歯の痛みが、かめば口の中に入れてある事が多い。

排泄

いとりでトイレまで行って排泄はかえり乗る(但し声が出ると手は洗わなければならない)
排泄の場合はハンコを下で拭く。
排便は、毎日の1〜2日おきに朝食後出るようにして居る。排便はと失敗してはいるが時々トイレでしゃべりながら排便する事がある。

衣服の着脱

簡単な衣服を脱ぐことが出来る
着るようにして着脱出来る事がある。自分で着脱出来る。
フジヤ帽子は自分で着けるがフジヤの左右は絶対に間違えない。
ボタンは自分で。
ファスナーは上下にある。自分で開ける。
ホックは自分で着脱出来るようにしている。

言語

簡単な事以外の他人の言う事をよく理解し、命令、禁止に対して応じている。
反抗しない。
好きな言葉を毎日くり返して言う(おれ、これとおれん? やするおれん? ...
したんよお) 自分の思い通りの答えが返ってくるまで同じ事ばかり質問する。

行動

- ・ フランコにのる(自分で乗る) 回廊塔にのる
- ・ ビンゴマシン(ビンゴのオモチャ) 積木 鉄棒、ボール遊び
- ・ 鉄棒(びんごのオモチャ) 平均台、歩く、走る、トランポリン
- ・ 水遊び(ホースの水を強くかけられると泣くが、どうも遊び、プールは好き)

いとりにあくと頭、体を左右にふるっているが、反動はほとんどない。
自分より小さいものをいって指し示す事が出来る。

別表 1. 年 間 指

| 月 | | 4 | 月 |
|----|-------|---|---|
| 行事 | 行事 | <ul style="list-style-type: none"> 先生や新しい友達に親しみ喜んで遊ばせる。 寮生活に必要なきまりを知る。 | |
| 月 | 言語 | <ul style="list-style-type: none"> 積極的に挨拶や話しかけをする。 遠足の思いを話す。 要求の言葉で表す。 電話を喜んで聞く。 | |
| 火 | 自然・社会 | <ul style="list-style-type: none"> 遠足に参加する。 喜んで屋外の自然に接する。 物の形について興味や関心を持たせ。 丸皿箸辨微に気付く。 スプーンをはしき正しく使える。 物に興味を持ち手で触れこみる。 共同のものを使い方がわかる。 友達と仲よく遊んだり仕事ができる。 日常の挨拶を元気にかわす。 プラインディズムをやめる。 | |
| 水 | 健康 | <ul style="list-style-type: none"> 慣れた寮生活の中で基本的な生活習慣。 常に排泄の習慣を身に付けて行く。 手伝いを要求することもあるがほとんどの衣服は一人で着る。 屋外で喜んで遊ぶ。 好き嫌いをせずにごはんおかずを割りによく食べる。 検診を受ける。 トイレで排泄する。 進んで一人で食べようとする。 | |
| 木 | 絵画製作 | <ul style="list-style-type: none"> クレヨンを使って自由に描く。 風によって動く鯉のぼりや、かざぐるまを作り興味を持って遊ぶ。 新聞紙を手で遊ぶ。 | |
| 金 | 音楽 | <ul style="list-style-type: none"> みんなと一緒に歌遊びや年遊びをする。 先生と一緒に知っている歌を歌う。 | |
| 行事 | 祭典 | 天皇誕生日 | |
| 行事 | 祭典 | 遠足 | |

別表 2

設定保育 (10:00 ~ 10:30) 対象児 KN・TN・H

| 期 | 曜 | 日 | 内 容 | 指 導 上 の 留 意 |
|-------------------------------|---|---|---|---|
| 第 一 期 (四・五 月) | 火 | 月 | <ul style="list-style-type: none"> ◦ なぞり板 横線 → 円形 → 正方形 → 斜線 → 三角形 → 十字形 | <ul style="list-style-type: none"> ◦ 最初になぞりしてみ、思ったことを にする、又線が曲がるように手を動かす ◦ 1つの形を完全に覚えさせるように、横に 線、縦線、斜線、正方形、三角形等)の りして、何處も及ぼしてはつきりとその特徴 を給言えるまでする。 ◦ 覚えおれた形は実際に指で表現した。 わしたか、又保育者に指示された形を指 るよ引ける。 ◦ はつかりと把握できた児は、はめえとさ |
| | | 火 | <ul style="list-style-type: none"> ◦ クレヨンでかく 線を引く → 面をぬる → 自由画 → 対象を見ながら → 想像にかく | <ul style="list-style-type: none"> ◦ クレヨンの正しい持ちかたをさせる。 ◦ 指の巧緻性、集中、持続性を養う、のび 表現させる。 ◦ 線を引く場合、手をどえたり、言葉がけ(ウレ、カ キ、面をぬる場合最後まできちんとぬら ◦ 対象を見ながら書く時は目線、興味を併せている。 形のはつきりしたものを認めてよく見てかき かたよくきかた、かいた線をたしかめさせ 正確にかかす。(レースライター、のり等使用) ◦ 想像画は、その見の想像をいくらも描く助 ◦ 製作する喜びを味わわせ完成は満 ◦ はつかり、のりの正しい使い方をおしえたり ◦ 写すのをよく切る、はり合わせる、という能 然に身にういていくよう仕向ける。 |
| | | 水 | <ul style="list-style-type: none"> ◦ 歩行訓練 (恩徳寺) 先生 → 友達と手をつないで歩く。 ◦ 春の自然を楽しむ。 ◦ 雨天、音楽。 タンポポ、カキコ、春が来た をみんなが歌う。 手遊び | <ul style="list-style-type: none"> ◦ その日の健康状態を知らずお ◦ 草花(タコボ、レンゲ、ハスバ等)、虫(ア 蝶)等(ウグイス、ヒトリ、ツバメ)に ◦ みんなで歌のしうたう。 ◦ 正確に覚えさせ、手遊びせ |
| | | 木 | <p>日曜日に全じ。</p> | |

別表3 対 展 覧 (Y: I, J, K) NO. 3

| 月 | 対 展 覧 | | 指導上の留意点 |
|----|------------------------|-------------|---|
| | Y | I J K | |
| 4 | 円形バグボード (ブロック) | 紙やぶり | <ul style="list-style-type: none"> ・円形バグボード。 <ul style="list-style-type: none"> ・手の巧緻性をつける。 ・はさみ成功感を知る。 ・紙やぶり。 <ul style="list-style-type: none"> ・手さきの巧緻性をつける。 ・音、言葉かけにより興味を保持し構えらばんと人と細かくする。 ・はさみの使用 <ul style="list-style-type: none"> ・初め正しい使い方よりも、はさみに慣れさせる楽しさを味わわせる。 ・クレヨンでかく。 <ul style="list-style-type: none"> ・筆圧や筆圧強さを養う。 ・正しく持つようにさせ、顔や文字を打つ準備をする。 ・ファンガーペンティング。 <ul style="list-style-type: none"> ・「のび」の力を知り、両腕の力を味わわせる。 ・はさみ板、はめ板。 <ul style="list-style-type: none"> ・手の感覚を高め、正確に形をとらえるようにする。 ・粘土あそび。 <ul style="list-style-type: none"> ・握力をつける。 ・粘土になれる作る楽しさを知る。 |
| 5 | ↓ | | |
| 6 | はさみ使用 | | |
| 7 | クレヨンでかく ファンガーペンティング | ファンガーペンティング | |
| 8 | | | |
| 9 | | クレヨンでかく | |
| 10 | | | |
| 11 | はさみ板 | | |
| 12 | はめ板 粘土板 | | |
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | 粘土板 | 粘土板 | |

別表 4

運動遊具指導計画 NO1

対象児 (K.N, T.N, H.M)

| 月 | 週 | 中心活動 | ねらい | 指導上の留意点 |
|----|---|---|--|---|
| 4月 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 集合 走る 用意ドン(先生) | <ul style="list-style-type: none"> 先生の叫び(準備)に合わせる かまぼこ動く 早く行動ができるようにする | <ul style="list-style-type: none"> 楽しく遊べる雰囲気を作る 十分に遊べる環境を用意しておく 最初に規則を完全に理解し、集まる行動できるように仕向ける |
| | 2 | <ul style="list-style-type: none"> なすびっこ 先生とかけっこ | <ul style="list-style-type: none"> 順番を覚えること きかぬまで最後まで走り続ける 自分から進んで遊ぶようにする | <ul style="list-style-type: none"> わかりやすく、ルールを説明し行動しなおす理解させる 最後まで走りとおすよう促す 友達と衝突したり物にあたらないよう注意する |
| | 3 | <ul style="list-style-type: none"> かけっこ 目撃路かけっこ ゴールストップ | <ul style="list-style-type: none"> 先生の言えとよく聞く 判断力、敏捷性を養う | <ul style="list-style-type: none"> 集まることができず 幼児の言えとよく聞き、準備中中心に動く 走るときに他人が居るのを、1人づつやらせたり、走らな方向を指示する、複数の場合速く幼児中心に声をかける |
| | 4 | <ul style="list-style-type: none"> 模倣遊具 ねこ、いぬ、うさぎ かまぼこ、おでん 人形 | <ul style="list-style-type: none"> 形や動きを真似る 動物の動きを知る いろいろな動きを自由に表現し、楽しむ | <ul style="list-style-type: none"> 幼児の動きが上手いようであれば、表現のしなやかさを助言したりする 動きの似ていないものを、模倣表現を促さない |
| 5月 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> かけっこ とびっこ | <ul style="list-style-type: none"> 友達と競争する喜びを味わう 競争力を高める | <ul style="list-style-type: none"> 友達と競争して遊ぶようにする |
| | 2 | <ul style="list-style-type: none"> 先生と鬼あそび 鬼いかけ | <ul style="list-style-type: none"> 鬼の行動パターンを知る 敏捷性を養う 判断力を養う | <ul style="list-style-type: none"> 準備が整い、幼児を待つ余裕をもち、幼児全員鬼になり準備を促す |
| 6月 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> 模倣遊具 汽車 バス 舟 | <ul style="list-style-type: none"> 口ごもりの特徴を伝えるようにする 表現を楽しく全体を動かす | <ul style="list-style-type: none"> 幼児の想像を大切にす 全体を動かすよう助言したり、大きく動くよう促す |